



もっと「知りたい」「知らせたい」… みんなで

ひるがのーと..

Vol.6

ひるがのクラフト展と同日開催

ひるがの高原を歩こう!

コース
約6km

春の女神 みずばしょう群生地
初春のぶなの森
分水嶺公園等の散策



日時：2011年5月4日
集合場所：湿原植物園前広場
(クラフト展会場国道向う)
出発時間：10:15~
(所要時間2時間程度)

- 自由参加です。会費無料
- 散策中のケガや事故については、一切責任を負いかねますので、各自気をつけて行動してください。

【担当・責任者】清水 (09026134683)

東北地方太平洋沖地震により、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。多くの方々が被災されたことに胸を痛めつつ、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

ひるがの高原でアウトドアの活動を行い、ひるがのーとや公民会活動にも協力して下さっているODSSさんが、ひるがのからも3月23日に救援物資を持って被災地へ届け、その後の活動についてご報告を下さいました。引き続き支援活動を続けられるとのことでした。

高鷲観光協会のみなさま 2011/3/30

3月25日までにいただいた支援物資は、予想を越えて約10トンほど集まり、日本エコツーリズムセンターの活動支援として、行政の支援の届かない海岸近くの家がなくなった場所と、その近くで生活する人たちを中心に全て現地へ届けてきました。まだまだ現地は困窮を極め、避難所以外にも支援を必要としている方が数多くいらっしゃいます。この先も支援物資を届ける活動は続けていきたいと存じます。3日前後の行程ですが、一緒に行く方も募集していますので是非お問い合わせください。

【ODSS 北川 090-4858-3535 (6時~20時)】

また、民間の活動のため義援金は使えず、支援活動資金が不足しています。できましたら皆様の温かいご支援をお願い致します。

●活動支援金振込先

三菱東京UFJ銀行 岐阜支店
口座番号 1314998
口座名義 広域防災水難救助捜索支援機構
中部・東海広域基幹支部

※ここにお振り込みいただいた支援金は、義援金として生かされるものではありません。支援物資を運ぶ燃料代、ボランティアの食事代などに使います。



被災地へ到着した物資を小回りのさくワゴン車に積みなおす



津波で流された車やがれきの中を避難所へ向う、救援物資を積んだ車

防災についての意識

自分たちの
出来ることから
始めよう

地震や自然災害は起こるものだと思います。関心を持ちましょう。そして、地震が起きた時の状況をイメージし、ご自身の取るべき行動を考えてみてください。家の中か、外か、会社か、夏か、冬か、昼か、夜か、家屋は、家具は、電気は、ガスは、水道は、避難路は、無事避難できるのか、誰かに助けてもらえるのか、誰かを助ける事ができるのか・・・優先すべきは、命です。

1 災害時の状況をイメージしておく 家族や周りの人と話し合っておく

家屋の倒壊と同様、命に関することです。災害の事前の対策が大切です。非常持出袋よりも、まず転倒防止対策が先です。

2 家屋が倒壊しないように耐震補強する

3 家具の転倒防止対策をする

4 防災セット(非常持出袋)・保存食・保存水などの備蓄品を用意する

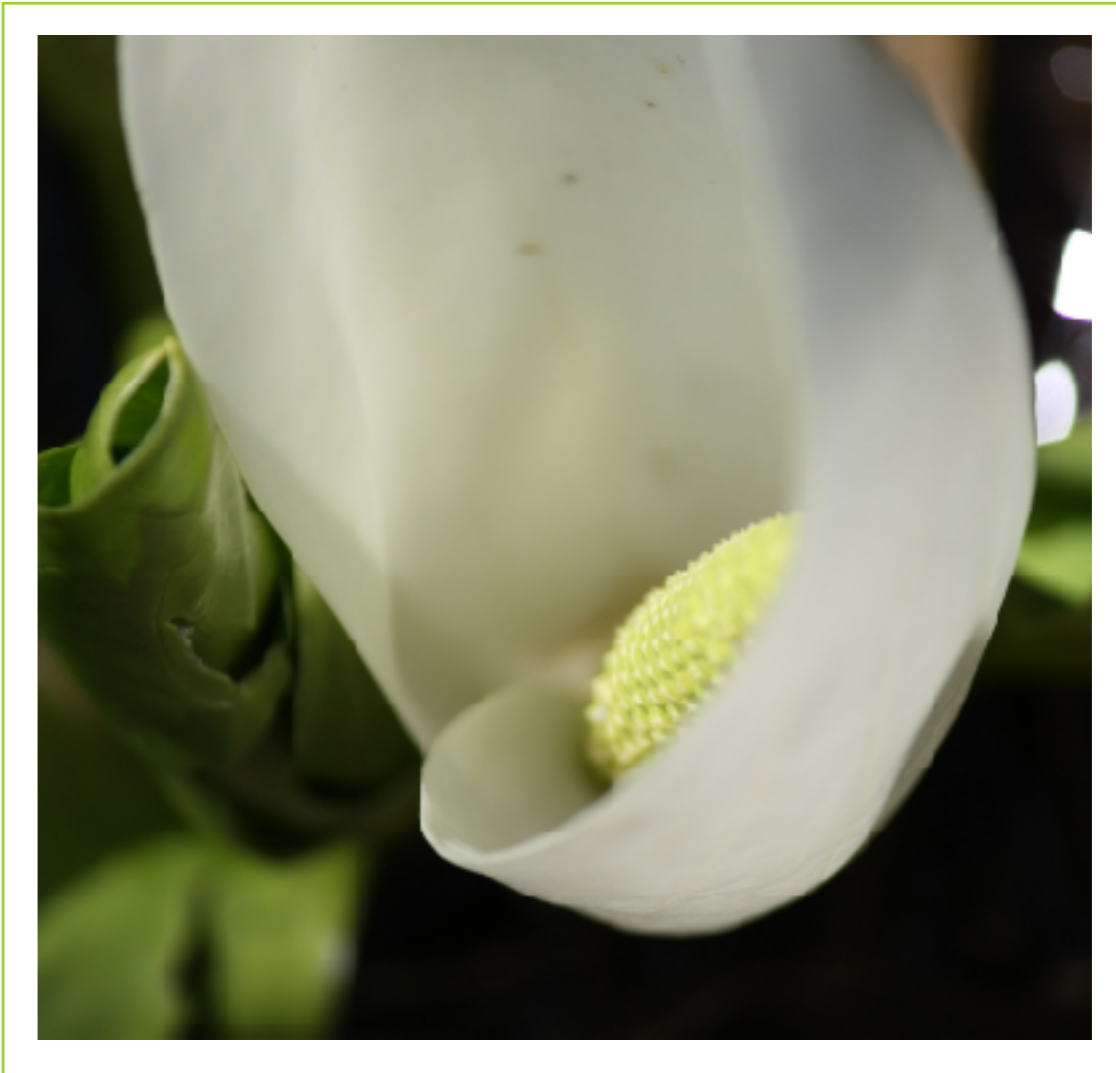
年齢、性別、家族構成、地域など、人により異なります。一般的に用意する物だけでなく、粉ミルク、持病の薬、メガネ、下着、小銭などなど、是非考えてセットに加えて下さい。家族の中で体の弱い方、赤ちゃんやお年寄りに合わせて考えるのがポイントです。

編集後記

あまりの被害の大きさに、誰もが言葉を失い、心をえぐられるような痛みを感じずにはいらなかった東日本の大震災。日本ではもちろん、世界中で多くの人が、それぞれ自分に何ができるかを考え、行動しています。私自身も、防寒着やオムツなどの物資や義援金などで、ほんとに微力ながら支援の輪に参加しました。でも、その先は？と考えるとなかなか難しく、節電もしてはいますが、イベントもいろいろ中止になりましたよね。震災後、そんな気分になれない、と、旅行をキャンセルする人も多かったと聞きます。たしかにその気持ちもわかります。でも思うのです。今、目の前にあるかけが

えのない毎日を、元気にまっとうに生きていく、その当たり前のことだって、まわりまわって支援につながるんじゃないかな、って。元気のある者が、自分の仕事をして、きちんと消費生活を続けて、日本の基礎体力を維持しないとね。復興にはかなりの年数がかかるといわれます。だからこそ、私個人は、何かを取りやめにする事より、あえて動くことを選びます。そして、その流れが活気となっていつか被災地にまで届くことが理想です。

はあ、今回の編集後記は難しかった。制作にあたり、ご協力くださったみなさん、Special Thanksです。がんばろう、NIPPON。(そ)



(写真:水芭蕉/撮影:中谷 安樹)

ひるがのといえば、ミズバショウ。

厳しい冬を乗り越えて、雪解けの頃、

雪の白と入れ替わるように、ひるがのの湿原を覆います。

春の訪れを告げるミズバショウが、

冬の寒さに固まりかけた心を解かしてくれるように、

日本中が春の訪れを感じられるようになることを心から祈っています。